

日ヨルダン共同声明（仮訳）

2014年11月20日

アブドゥラー2世ヨルダン・ハシェミット王国国王は、2014年11月18日から22日の間日本を訪問し、11月20日に安倍総理と首脳会談を行った。

両首脳は、日本とヨルダンの外交関係樹立60周年のこの機会に、皇室・王室の伝統的友好関係を始めとする歴史的な友好の絆を含む良好な関係を一層強化する決意を新たに示した。両首脳は、両国の戦略的関係を更に発展させ、平和と安定を促進するための協力を継続することを改めて確認した。

二国間関係

安倍総理は、日本の国連安全保障理事会常任理事国入りに対するヨルダンの継続的な支持に対し謝意を表明し、来年まで国連安全保障理事会で非常任理事国として積極的にアジア太平洋グループの代表を務めるヨルダンの活動を評価した。

安倍総理は、ヨルダンのシリア難民に対する人道措置を高く評価し、新たに無償資金協力「バルカ県送配水網改修・拡張計画（22億3,800万円）」及び中小企業ノン・プロジェクト無償資金協力（2億円）を供与することを決定した旨伝達した。

アブドゥラー2世国王は安倍総理に対し、本年3月に供与された120億円の開発政策借款を含む現在及びこれまでのヨルダンへの日本の支援に感謝を表明したのに加え、現在までに総額4億ドルを超えるシリア難民及びシリア周辺国への日本の支援に感謝を表明した。アブドゥラー2世国王は、2015年における新たな開発政策借款を要請した。

安倍総理は、地域の不安定さ及びシリア難民の継続的な流入に起因するヨルダンの困難な財政状況を理解しつつ、日本は可能な限り国際社会と緊密に協力してヨルダンへの支援を継続していくことを表明した。両首脳は、近年最悪の人道危機となりつつある中、結果として受入国におけるインフラ、サービス、就労機会への大きな圧力となっていることに留意しつつ、シリア難民及び周辺国への支援を国際社会に要請した。

両首脳は、両国間のハイレベル交流の活発化及び特に閣僚政策協議及び高級実務者協議の強化について議論した。両首脳は、防衛省・自衛隊とヨルダン軍の間における防衛関係を拡大し、相互訪問を活発化することで一致した。

両首脳は、両国の豊かな文化遺産を念頭に、活発な文化協力の重要性を強調した。この観点から、アブドゥラー2世国王は、日本が本年供与した一般文化無償資金協力「ペトラ博物館建設計画（6億8,620万円）」に対し謝意を表明した。本博物館は2016年の開館が予定されている。

アブドゥラー2世国王は、原子力や再生可能エネルギーの分野における日本企業の経験や技術面での優位性を高く評価するとともに、ヨルダンにおける日本企業の一層活発な活動を期待し、日本企業の活動に対する支持及び奨励を表明した。

両首脳は、スポーツを含む様々な分野で両国間の協力関係が進展していること、及び、両国のサッカー協会によるパートナーシップ協定の締結を歓迎した。アブドゥラー2世国

日ヨルダン共同声明（仮訳）

2014年11月20日

王は、「スポーツ・フォー・トゥモロー」プログラムを通じて両国間のスポーツ分野での交流を強化していく旨の安倍総理の意思を歓迎した。

両首脳は、持続的かつ健全な経済発展の実現には、女性の社会参画が重要との認識を共有し、その促進に向けた協力を確認した。

地域と国際社会の平和と安定に向けた協力

安倍総理は、国際協調主義に基づく「積極的平和主義」及び7月1日の閣議決定に基づく安全保障法制整備を含む日本の取組について説明した。これに対し、アブドゥラー2世国王は、日本による地域及び国際社会の平和と安定及び繁栄への貢献を歓迎し、日本の安全保障政策への支持を表明した。

安倍総理はアブドゥラー2世国王に対し、中東地域の平和と安定、特に中東和平プロセスにおける、これまでのヨルダンの重要な役割と貢献を高く評価している旨述べた。アブドゥラー2世国王は、和平プロセスにおける日本の支援を賞賛し、特に日本の重要なイニシアティブである「平和と繁栄の回廊」構想を評価するとともに、本件構想を地域の平和促進に繋げる方法について議論した。両首脳は両国及び他の国際社会のパートナーに対し、「平和と繁栄の回廊」構想の実現に向けた決意を再確認した。

両首脳は、最近の暴力の増大について懸念を表明するとともに、アラブ和平イニシアティブ及び関連する国連決議に基づき、イスラエルと将来の独立したパレスチナ国家が平和かつ安全に共存する「二国家解決」に向けた交渉に戻るよう、イスラエル及びパレスチナに要請した。

両首脳は、暴力の増大や、継続する入植地建設やイスラエル及び聖地において現状を変更するいかなる動きを含め、最終的な平和的解決への希望を損なう一方的行為を中止するよう求めた。

両首脳は、国際社会に見られる力や威圧を背景とした一方的な現状変更のいかなる試みも受け入れられないとの認識を共有した。また、平和及び安定、阻害されない通商、公海における航行及び上空飛行の自由の重要性を再確認した。

両首脳は、シリア情勢に対する懸念を表明し、人道状況の改善と2012年6月30日のジュネーブ・コミュニケに基づく政治的解決の重要性を強調した。

両首脳は、あらゆる形態のテロを非難した。両首脳は、進化するテロの性質は、更なる情報とインテリジェンスの共有などを通じたテロとの闘いにおけるより強固な国際的パートナーシップを求めるものである旨強調した。

両首脳は、I S I Lは国際秩序に対する重大な脅威であり、この脅威に対処するため、外国人テロ戦闘員問題を含む幅広い分野における国際社会による共同の努力の必要性について認識を共有した。

日ヨルダン共同声明（仮訳）

2014年11月20日

安倍総理は、I S I Lの脅威に対抗するヨルダンの努力、及び、アンマン・メッセージ、コモン・ワード、世界異教徒間の調和週間等の異なる宗教・宗派間・内のイニシアティブを通じた過激主義思想に対抗する上でヨルダンが果たしている卓越した役割を支持し高く評価した。アブドゥラー国王は、日本によるイラク、シリア及び周辺国に対する人道支援を含むテロとの闘いを高く評価し、今後も両国で連携していくことを確認した。

両首脳は、東アジアにおける幅広い安全保障環境について意見交換し、国際法に従ってアジア太平洋地域の平和と安定を維持することの重要性を確認した。

両首脳は、核軍縮・不拡散並びに中東非核兵器及び中東非大量破壊兵器地帯の重要性を再確認し、特に明年に開催される2015年NPT運用検討会議の成功に向けて、NPTの普遍化の重要性に留意し、同分野での協力を継続・推進する意思を表明した。

両首脳は、北朝鮮による核兵器及び弾道ミサイル開発の継続並びに拉致問題に対処するための協力を強化する意思を表明した。また、両首脳は、国連安保理決議に従って平和的な方法により朝鮮半島の安全と安定を維持することの重要性を再確認した。

安倍総理は、PKO分野でヨルダンが果たしている積極的かつ献身的な貢献を高く評価した。アブドゥラー2世国王は、日本の同分野における質の高い活動を高く評価した。両首脳は、ヨルダンのPKO訓練センターと日本のPKO関連部局との間における講師の相互派遣を含むPKO分野での協力を強化していくことで一致した。

両首脳は、2015年中に、常任理事国及び非常任理事国双方の拡大を含む安全保障理事会の改革について具体的な成果を得るため取組を強化することで一致した。

両首脳は、気候変動、環境問題及び防災等の地球規模課題について、人間の安全保障の理念に基づいた、ポスト2015年開発アジェンダの策定及び気候変動枠組条約第21回締約国会議（COP21）で採択される予定である新たな国際枠組みに向けた協力を含め、これらの差し迫った地球規模課題に取り組むことの重要性を認識し、これらの課題に対処するための更なる協力を再確認した。また、両首脳は、2015年3月に日本の仙台で開催される第3回国連防災世界会議への積極的な参加と緊密な協力を確認した。